

もじばら

第30号

平成二十五年は、第二祖日向聖人の七百遠忌です

題字・持田日勇貫首親下

発行日 平成24年12月1日

発行所 千葉県茂原市茂原1201
日蓮宗東身延 本山藤原寺
TEL 0475-22-3153
発行責任者：増田 寶泉 総務執事

掲示板

日蓮大聖人大銅像建立 浄財勸募中



日蓮大聖人の大銅像を建立致します。

当山の檀信徒並びに

各寺院の御住職、檀信徒の皆様方、

銅像建立に賛同していただいける方々の

ご協力を心よりお待ちしております。

お早めにお申し込み下さいますよう

お願い申し上げます。

貴首様のお言葉

現代社会における仏教徒の役割

仏教的な生き方について



昨今の世界における宗教の趨勢では、キリスト教徒が二・五億人、イスラム教徒が一・五億人、ヒンズー教徒が九億人、儒教と道教を合わせた中国の伝統的な宗教徒が四億人、仏教徒が四億人、無宗教者とその他の宗教徒六億人と言われています。仏教徒は世界の人口の約六%です。

仏教は、古代インドや随・唐時代の中国で栄え、九世紀頃までには韓半島、日本、東南アジア諸国、チベット・モンゴル等にも定着していききました。

ただ、その後の仏教の伝道について言うなら、十世紀後半のアジアにおけるイスラムの台頭以降さしたる拡大は見られません。特にインドでは、ヒンズー教の改革やイスラム教の攻撃により、仏教がほぼ滅んでしまいました。

確かにここ二百年の間、仏教徒の人口は増加していますが、それは世界人口の増加による、自然増という面が強く、キリスト教やイスラム教のような布教による急激な増加ではありません。

将来、アフリカやインドでの人口増加が見込まれるので、イスラム教やヒンズー教は、変わらずに伸びていく模様ですが、仏教の将来はというと、人口比率的には減少であろうと考えられています。

ただ、このような宗教情勢にあっても、私は、仏教は世界に対して、とても大切なことができると考えています。これは、上座部や大乘の教えというそれぞれの教義ではなく、むしろ、より根本的な「仏教的な生き方」の点においてであると考えています。

「汝すべからく一身の安堵を思わば、先ず四表の静謐を務るべきものか。」（立正安国論）日蓮聖人の言葉です。

ここでは「四表の静謐」という世界の平和が、直接「一身の安堵」という個人の幸福に結び付けられています。

法華経をこよなく愛した日本の詩人、宮沢賢治もこう記しています。

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない。」（農民芸術概論綱要）
このように個人の幸福と世界の幸福を結び付けて考えるのは、何も日蓮宗や法華経のみではありません。

スッタニパータに「目に見えるものでも、見

えないものでも、遠くに住むものでも、近くに住むものでも、すでに生まれたものでも、これから生まれようと欲するものでも、一切の生きとし生けるものは、幸せであれ」とあるように、個人の幸福と世界の安寧を結び付けて考える立場は、実に釈尊から直に伝わった私たちの素晴らしい伝統にほかなりません。また、ここで注目すべきことは、仏教においては、その世界の幸福といったものが、生活を離れた形而上的な概念ではないということです。

仏教における世界の幸福は、個人の幸福やその周囲の環境を犠牲にして成り立つものではありません。個人の幸福自体が世界全体の幸福と密接な結び付きがあるという考えから成り立っているのであります。

これは争いや犠牲の中で生まれた他の世界宗教とはかなり違った立場であると言えます。仏教では「生」というものは根本的に苦しみであると言いますが、これはひとえにその苦しみを抜け出すためのものであります。

仏とは「覺者」であり、覺者とは苦しみの本質を悟り、苦しみに対処する術を身に着けた者でもあります。

仏教の目標が悟りであるということを知れば、それは、生きていく上での様々な智慧を悟り、苦しみを抜け出していくこと、さらには他者や生きとし生けるものに、そのような智慧を伝え、幸福を得せしめていくこと、と言えるでしょう。

即ち、幸福というものが単に生活の満足だけではなく、人生に対する深い認識を含むものだとするれば、そのような幸福の追求こそが仏教の根源的な目的であろうと思えます。では、この現代にあつて「幸福」とは一体何でしょうか？

幸福とは具体的なものであつて、形而上的なものではありません。

人生を送つていく上で、様々な体験をしていく中で獲得する感情であります。

現在の生活に満足していると言ふこともあるでしょう。しかし生活が苦しくとも幸福に感じる人もいます。

私たちの幸福感には適応力があつて、辛いことがあつても、嬉しいことがあつてもその個人の元の満足感に戻っていく。個人の生活の満足感の内、だいたい半分がそのように心の持ちようや自分から何かを行つていくことの充足感だと言われます。

自分の人生をどう創造していくか。どう願ふことを達成していくか。その中に幸福はあります。

こういったことは、少なからず私たちに仏の智慧の大切さをあらためて教えてくれます。

例えば、食りと怒りと愚痴という、貪瞋痴を私たちは「毒」と言つて、「毒」と捉えます。

食りという飽くなき欲望がなければ、この人間世界はこれほど発展しなかつたでしょうし、

怒りというものも、キリスト教やイスラム教、古代ギリシヤでも神の怒りとして、共同体や

個人を守るための必須の要素として神聖なものとして扱われていました。

けれども根本的な認識において、食りや怒り、また愚痴という愚かさや安住しようとする心、これは「毒」であるといえます。

このような物の見方は、人類にとつてその生活を根本から見直すことのできる大事な知見であると言ふことができます。

そしてこのような心の持ち方に関する智慧や知見は、上座部や大乘の各派に亘つて、仏教はそういったものの宝庫であると言えましよう。

戒律の遵守や、儀式のみならず、そのような智慧や知見を広く世に伝えていくこと、それこそ仏教の現代における大切な役割となります。

先年の十月、琵琶湖の近くにある中学校で、一人の男子生徒がマンションから飛び降り、自ら命を絶つてしまいました。その生徒は、同級生からひどいじめを受け、金銭を要求された後、自殺の練習までさせられていたということが報じられています。家族は、生徒の死後、再三警察に調査を依頼しますが、校内のこととして、取り合つてもらえませんでした。

それが、インターネットを中心とするメディアが世論をつき動かし、学校側がいじめの実態を深く受け止めず、調査報告を怠つていたこと等が明るみになって、学校に警察が家宅

捜索に入り、在校生徒に事情聴取を行うよう

な事象となつていきます。

驚くべきことは、この中学校は、二〇〇九年、二〇一〇年と文部科学省の「道徳教育実践研究事業」の推進校の指定を受けています。

これは「豊かな心の育成」を目標として、「他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心」を育むための教育を実現することになっていきます。

このような学校で、とても陰惨な事件が起こつたことは誠に残念ですが、ここには何かを象徴するようなものがあります。

それは「豊かな心」即ち「他人を思いやる心」も「正義感や公正さを重んじる心」も、あたかも形而上的な概念のように、実際の人を見ず、人それぞれの生き方に深く接することなくして、唱えられているだけという社会の実態です。

このように事件となつて問題が明るみになれば、何かおかしいと社会や皆が了解しますが、問題が隠されたままであれば、あたかも問題がありえないかの如くに看過され、宙に浮いた虚妄な言葉が唱えられる。そして問題が本

当に大きなものになるまでほつておかれてしまふのです。

即ち、唱えられる理想を真に実践することなくして、あたかもそれを唱えることが理想の実践だと勘違いされています。

これは仏教的に言えば「妄語」にほかなりません。現代の社会では、このような妄語がは

びこり、その背後には必ず「貪り」や「愚痴」という毒の影がちらついています。

そして、仏教の役割とは、そのような「妄語」が「妄語」であるとしつかりと伝え、「二毒」は「毒」であることをちゃんと世間に伝え、

なおかつ、それらを伝えることのみを単なる理想とせず、出会う人、一人一人のその人生に語りかけ、希薄化しつつある人と人と関係を結び付けていくことであります。

また、自らもそのような仏の教えを実践しつつ、そのように一人一人の人に語りかけることのできる僧侶や信徒を育成していく、そのことが今、私たち仏教徒に求められているのではないかと思います。

「行学絶えなば仏法はあるべからず。」(『諸法実相鈔』)

これも日蓮聖人の言葉です。

行とは戒律の遵守や經典の読誦、称名や儀式に習熟することのみではありません。それは仏の智慧をさらに探求し、それを現実の人と人の繋がりの中において実践していくことが大切なのです。

もし私たち三か国の仏教徒が、身をもってそのような「仏教的な生き方」を実践していくなら、必ずやこの世界に対して仏教は大きく素晴らしい贈り物ができるでしょう。合掌

第十五回日中韓仏教友好交流会論日本大会

学術講演会での講演要旨

於立正佼成会横浜教区

行事記 録

ホウロク灸

(平成二十四年七月二十七日)

汗ばむ陽気の中、土用の丑の日に当たる七月二十七日、華経殿にてホウロク灸祈禱会が行われました。参加者は頭に乗せたホウロク皿の上にもぐさを載せ、火を付けその香りでお堂が充満した中で、読経の後加持祈禱を受けました。熱いお灸は頭頂のツボを刺激し、夏ばて防止などの効果も期待できると言われており、各々暑い夏を乗り切れるように暑気封じや、子どもから疳(かん)の虫を出す虫封じを祈念しました。

盂蘭盆施餓鬼会

(平成二十四年八月十五日)

今年も十五日午前九時から持田真首親下大導師の下、盂蘭盆施餓鬼法要が厳修されました。今年も四十の新盆の霊位が施餓鬼供養を受けられました。施餓鬼供養は自分の先祖だけでなく、餓鬼をはじめこの世界のあらゆる衆生を供養することによって多くの功德が得られると言われております。法要中、御堂前の施餓鬼棚にて、新盆の霊位の施主は立幟、灑水、焼香をし供養を行いました。

その後、大堂に設置された三つの高座にて誦誦文供養が行なわれました。誦誦文は法華経や日蓮聖人の御遺文の重要な一節を抜き出

したものを読み上げ、その功德をそれぞれ志す霊位に回向する法要です。今年も多くのお親族、縁者がお参りに来られました。



宗祖御更会式

(平成二十四年十月一日)

大堂内の窓を暗幕で覆い、秋季の宗祖御更会式が午後一時より持田真首親下大導師の下厳修されました。

式衆による読経の声が響く中、堂内の灯りが消され、官殿の御簾が下ろされました。

その後、冬衣にお着替えになられた日蓮聖人が御開帳されました。

告知

蕨原寺芝生墓地

蕨原寺横の大駐車場脇の墓域を大幅な改修工事を行い、明るく近代的な芝生墓地を造成致しました。求めやすく全て1・5㎡の区画になっていきます。ご親戚、お知り合いの方々に墓地をお持ちでない方がおられましたら、ご紹介下さい。詳細につきましては蕨原寺にお問い合わせをお願いします。願います。



行事案内

年間行事

十二月八日(土)

十五時

子育観音様大祭

十二月三十一日(月) 二十二時

お焚き上げ、除夜鐘

一月元旦(火)

零時

新年祝祷会

一月一〜三日

九時

新年祈願会

一月十四日(月)

十時

御頭講会

二月二日(日)

十五時

節分豆撒式

二月十七日(日)

十時半

観音堂春季大祭

二月八日(金)

十一時

弁天祭

二月九日(土)

十三時半

稲荷大祭

三月二十日(水)

十時

春季彼岸会

奉納

今関武人様

石井 佐様

房総緑化様

田中妙定様

中川貫泰様

鐘田泰夫様

石井静栄様

田辺あや子様

鐘田ナカ様

佐藤良子様

後藤妙子様

草刈り機の替え刃四枚

バケツ、ひしやく沢山

刈払刃二枚

米一袋

米一袋

米一袋

米一袋

米一袋

米一袋

米一袋

米一袋

門祖日向聖人第七百遍忌

記念事業概要

平成二十五年十月二日(木)

日向聖人第七百遍忌音楽大法要 於、大堂

大導師 身延山法主

内野日總統下

平成二十五年十月五日(土)

講演会 於、茂原市民会館

第一部 東京大学教授

養輪顕量先生

「日本佛教の特色と将来」

第二部 千葉大学名誉教授

佐藤博信先生

「茂原地域における法華信仰の展開」

平成二十五年十月六日(日)

音楽会 於、茂原市民会館

オラトリオ日蓮聖人

演奏 茂原文藝楽団

指揮 土田政昭氏

合唱 茂原混声合唱団 他

指揮 中川知夫氏

記念出版

「蕨原寺宝物日録」の発行